

# No.15 キーワード： 側条施肥

うえはすファーム  
群馬県伊勢崎市

## 基本情報

- 気候 年平均気温約15℃
- 土質 灰色低地土
- 従事人数 5名
- 臨時雇用 30名
- 飼料用米の作付開始：H26年産

品目	作付面積	平均区画
主食用米(移植)	45ha	30a
飼料用米(移植)	12ha	30a
飼料イネ(移植)	6ha	30a
麦類	46ha	30a



側条施肥

## 経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- 労力分散や機械効率を考慮して、早生と晩生の品種を組み合わせる作付
- 学校給食用に提供してきたこともあり、種籾の温湯消毒などを取り入れ、農薬使用をできるだけ控えた栽培を実施
- 低コスト化へ繋がるよう、疎植栽培等の新しい技術を積極的に導入
- 農地集積により作業効率を向上

## 稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- 農業機械、肥料
  - ① すでに慣行で、施肥労力の軽減のため、基肥一発肥料をブロードキャスターで散布、さらに肥料費、施肥労力の低減のため、側条施肥田植機を導入
  - ② 側条施肥により、肥料の利用効率が高まり、窒素成分施肥量の低減が図られ、施肥労力も低減  
(留意点)
    - ・施肥量の設定間違いや肥料詰まりがないか細めに確認することが必要。
    - ・緩効性肥料を含む基肥一発肥料は、倒伏しづらい品種に適用
- 農薬  
播種と同時に農薬の苗箱施用を実施し、施薬労力を軽減

## 導入効果

- 施肥  
肥料費▲約2割  
(▲1,400円/10a)  
労働時間▲約6割  
(基肥一発肥料をブロードキャスターで散布する施肥との比較)
- 防除  
農薬費▲約0.5割  
労働時間▲約8割  
(苗箱施用の手散布との比較)

## 支援体制

- 【取組のきっかけ・情報源】  
疎植栽培(新たな技術)を取り入れるにあたり、側条施肥にも対応した田植機を導入
- 【県等による支援】  
新たな技術や資材等の情報、栽培技術について、JAや県農業指導センター等が支援

## 課題・今後の目標

- 【今後の取組】
- ・農地の集積
  - ・稲育苗箱全量施肥・流入施肥・除草剤の流し込み処理等の新技術導入を検討